

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 8 月 8 日

【評価実施概要】

事業所番号	2170600767		
法人名	医療法人社団 悠久会		
事業所名	グッデイすぎないグループホーム		
所在地	岐阜県羽島郡笠松町二見町15-1 (電話) 058-387-7101		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年7月25日	評価確定日	平成20年9月16日

【情報提供票より】 (平成 20 年 7 月 1 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	7 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	41,000~49,000 円	その他の経費(月額)	20,000~ 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	有(期間:1ヶ月)
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 7 月 1 日 現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名
要介護3	2 名	要介護4	3 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85 歳	最低 70 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	杉山内科医院 松波総合病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

昔からの商店が残っている町並みの中にあり、駅も近く、家族が訪問するには便利なホームである。法人代表者は地域の医師としてのフィールドを持ち、住民が安心して暮らせる地域福祉の構築をめざして、ホームと同じ建物内に通所介護・予防リハビリ・小規模多機能型居宅介護の事業を展開し、地域福祉の拠点としての役割を担っている。全居室にトイレと洗面台が設置され、プライバシーの確保に配慮された環境になっており、常に居室の衛生管理に努めている。管理者をはじめ職員の対応は明るく、全職員が正規職員であり、事業部署を超えた業務の協力体制が柔軟なサービスの提供を可能にしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	まずは足元固めという姿勢で、法人の持つ事業の運営に全力で向き合い、評価作業の時期を逸し、今回が初めての外部評価受審である。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者はホームの現状をよく把握しており、ありのままを自己評価票にまとめあげた。今回の評価作業を通して、日頃のケアや働く環境を見直す良い機会と捉えている。評価からの気付きや改善課題はそのままにせず、職員と共に取り組み、サービスの質の向上につなげていきたいとしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は年2回の開催であり、利用者の状況報告や活動報告が議題の中心になっている。会議には家族や利用者の代表の参加があるが、行政や地域に密着した人材が構成メンバーに入っていない。開催期間が半年も空いているが、地域連携に向けた意見交換などは、管理者と地域包括支援センターとの間で頻繁に行われている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関ホールに苦情箱が設置されており、代表者と事務長が管理し、その対処も行っているが、職員がその内容を把握し、組織的な体制の中での取り組みには至っていない。管理者は家族の来訪があった時には仕事の手を休め、直接意見を聞くようにし、すぐ対処できることは迅速に取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設時に近隣を回り、住民の理解を求めた努力が功をなし、野菜の差し入れや老人クラブの研修会場、夏休みのラジオ体操の場として活用されている。駐車場とホールで繰り広げられる盛大な夏祭りも恒例化し、地域との交流を深めている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	代表者は地域福祉の実現をめざして事業を立ち上げ、その思いが「安らぎを利用者に、安心を家族に」「地域に顔をみせよう、顔のある施設作り」の理念をつくりあげ、運営体制が出来上がっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は定期的に理念の実践に向けて話し合いをしている。利用者が地域へ出る機会を増やし、地域の人がホームへ足を運んでもらえるよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設時に近隣を回り、住民の理解を求めた努力が功をなし、野菜の差し入れや老人クラブの研修会場、夏休みのラジオ体操の場として活用されている。駐車場とホールで繰り広げられる盛大な夏祭りも恒例化しつつ、地域との交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	法人の持つ事業の運営に全力で取り組み、評価作業の時期を逸していたが、今回初めて自己評価及び外部評価を実施した。評価作業を通して、日頃のケアや働く環境の見直しとなり、管理者や職員は評価の意義と理解を深めた。	○	評価からの気付きや改善課題をそのままにせず、職員と共に具体的な改善の取り組みに期待したい。また、次回は職員も参画して自己評価票を作成されたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年2回開催される運営推進会議は、グループホームのことだけに留まらず、法人悠久会としての運営推進会議になっている。家族や利用者の代表の参加もあり、利用者の状況報告や半年間の活動報告が行われている。	○	利用状況や事業報告の場から、さらに地域連携に向けた意見交換や改善課題を話し合う、広がりある会議に期待したい。また、地域に密着した人材の参加や開催回数の検討が望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	代表者は長年、地域の医師としてのフィールドを持ち、住民が安心して暮らせる地域福祉の構築を行政と一緒に頑張ってめざしており、そのつながりも深い。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム全体の様子を報告する「ホーム便り」の類はないが、毎月、個別に詳細な健康状態や伝達事項を文書で発送している。頻繁に訪れる家族には来訪時に伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールに苦情箱が設置されており、理事長と事務長が管理し、その対処も行っている。家族の来訪時には、管理者が仕事の手を休めて直接意見を聞くようにし、すぐ対処できることは迅速に取り組んでいる。	○	家族等の意見・不満・苦情の対応や解決は職員を含めた組織的な体制の中で取り組んでいくことが望ましい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	一時期職員の離職はあったが、利用者の安定した支援のためには職員の安定が欠かせないと考え、全職員が正規雇用である。離職者は激減し、部署を超えての業務協力はあるが、異動は最小限に留めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	医療に関しての対処方法は内部研修で行われている。外部研修は情報不足もあり、今後の課題としている。受講しやすい環境が整備されれば、研修に参加したいという学習意欲に前向きな職員もいる。	○	外部研修の情報収集に努め、職員の意欲を消すことなく、人材育成の環境を整えられたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	短期間に複数の事業展開が行われ、他の事業所との交流は後回しとなっていた。今後の課題としている。	○	足元固めの時期から外へと目を向ける段階でもあり、他事業所との交流への実現に向けての取り組みに期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	建物内に通所介護・予防リハビリ・小規模多機能と複合的なサービス資源を持ち、それらのサービスを利用しながら、ホームの様子を知ったうえで開始につなげることが出来、家族も一緒に体験できる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者同士のトラブルも一方的に職員が介入するのではなく、一緒になって解決策を考えたり、入院中の利用者を励ましに、みんなで揃って見舞いに行くこともあった。家族も食事介助に協力したりと利用者と職員の関わりの中に、家族も含めた支えあう関係が生まれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの暮らし方や生活歴を丁寧に把握し、家族の意向や本人の希望、行動からその人らしい生活につながるよう努めている。人との交流を好まない男性利用者は昼食も自室に持ち込み、本人のペースに合わせた自由度の高い対応に満足している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎週の職員会議や、家族の来訪時に合わせて開かれる担当者会議で話し合い、ケア目標や課題をわかりやすく3項目に整理し、介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	目標や支援方法の変更や見直しは、発生時点ですぐ対応している。計画の見直しが体系的なものになっていないのでケアの継続性が分かりづらい。	○	変更や見直しは計画、実施、評価、見直しといった支援過程の作業を通してケアの継続性が計画の中でわかるようにされたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人が持つ多様なサービスを活用し、通所介護のレクリエーションやリハビリに参加して地域の人との交流の機会が持て、大きなイベントは合同で行われている。職員の業務は事業部署を越えての協力体制にある。	○	事業部署を越えての業務の協力体制はややもすると職員の負担感が否めない。職員が余裕をもって業務に打ち込める配慮がほしいところである。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人代表の医師がかかりつけ医となり、月2回の定期往診が行われている。入居前から患者として顔なじみの人が多く、利用者や家族からの信頼も厚い。家族には詳細な受診内容が報告されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時点で、医療行為が必要になった際の対応についての説明があり、かかりつけ医は「生きる権利と尊厳を守り、緩和ケアをめざした医療」をモットーとし、終末期に入った時には家族と話し合いを重ね、本人の状況に応じた支援体制を整えていく方針になっている。救急病院との連携もある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は自然体の会話の中にも人格を尊重したコミュニケーションを心掛けている。全室にトイレと洗面台が設置されており、プライバシーの確保に配慮した環境になっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「あなたが主役」をモットーに、通所介護の活動に参加したい人、居室でゆっくりしていたい人、週末は定期的に帰宅する人など個々のペースを妨げることなく利用者の意見を尊重している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の準備、盛り付け、片付け等、利用者と一緒にやっている。流動食の人には元の食材を説明しながら、ゆっくり丁寧な対応で介助を行っている。食事を楽しむ基本は口腔ケアにあるとし、食後の歯磨きの励行を実践している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴を実施している。利用者の希望があれば、毎日の入浴も可能であり、体調や状態によっては通所介護を利用した機械浴での入浴支援ができる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	1人の利用者を我が娘のように思い、援護することが自分の役割だと思って行動している利用者には、職員がさりげなく後方支援に回っている。また、自宅で飼っている猫に会うのを楽しみにしている利用者には、家族の協力も得られ、実現している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や近くの大型スーパーに買い物に出掛けている。家族が来訪時に外出の機会を提供してくれることもある。1階にある開放的なホールへの行き来が外出気分になっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は開放されており、利用者の外へ出たい気持ちを制止しない見守り支援により、むやみな外出行動はなくなった。エレベーターは自由に使用出来、階段前の扉は状況に応じて、やむなく施錠することもある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、法人全体の避難訓練が行われている。災害対応マニュアルが整備されており、今後は、地域の避難場所として法人建物を提供し、地域連携の訓練を実現していきたい意向がある。	○	地域と共に行う避難訓練や連携体制など、今後の取り組みに期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に応じて食事量や形態に配慮している。食事の中で水分補給が出来る様に汁物や牛乳、お茶を欠かさず提供している。栄養摂取量、水分補給量を把握し、健康管理につなげている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	バリアフリーの環境にあり、共用の居間は明るく開放的である。居室を間違えないように、その人が理解できる方法で工夫している。備品や物品等は壁面に組み込まれた収納場所で保管されており、すっきりした共用空間を保っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	病院や施設からの利用者は持ち込みが少なく、家族に働きかけている。中には在宅時の自分の書斎の物をそのまま居室に持ち込んでいる利用者もいる。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。